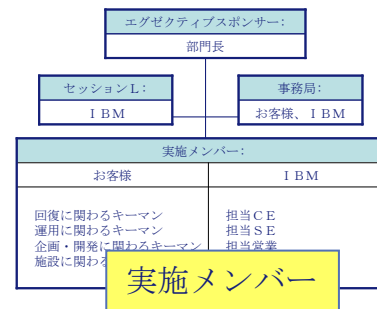
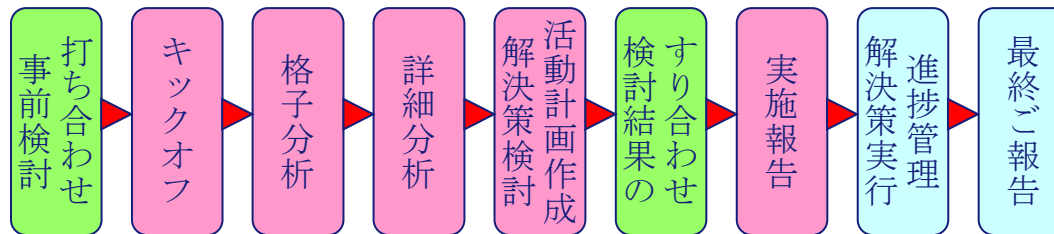


CFIA(構成要素障害影響分析)

CFIAはシステム構成要素の障害を想定し、格子分析と詳細分析による現状把握を行ないながら問題を抽出し、解決策の立案と実行を通し、障害が適用業務に与える影響の最小化を図るための手法です。

CFIA実施フロー



目的狙い、検討範囲

実施スケジュール

【格子分析】

【詳細分析】

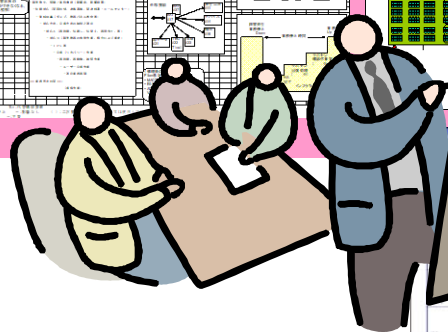
障害機器/現象	回復手順/所要時間	問題/影響/コメント
2105 ESS RANK #2障害 -DAカード	7. RAID作成、LUN作成、FCリンク作成 【120~180分】 7-1. MQ以外のミドルウェアを停止 7-2. TWSスケジュールの整理、待機率により遅い 7-3. OracleRredo、Archの切り直し ログの二重書き込みの片方を停止	-SEの実装が必要 -FC時のRANK障害、長時間化

優先順位

優先度	A (高)	B (中)	C (低)
高	S5, S6-1	S3, S6-2 S7, S13 S16-5	S9, S10 S12, S14 S16-4, S16-7
中	S4		S1, S8 S15
低	S2, S11		

効果

- 障害対策の明確化
構成面、回復管理面、データ保全面
- 共通認識の醸成
システムのウィークポイント
障害時のリカバリー対応
- 可用性の向上
業務が停止しない構成、所定の時間内に回復する仕組み



活動計画

特長

- ITILに準拠した、IBMだけの手法とノウハウ、影響最小化の検討をリード
- お客様とIBMによる問題発掘型のセッション形式
- システムのライフサイクルに応じた、可用性向上を目指す普遍的な分析と実装のモデル

*CFIA (Component Failure Impact Analysis)